



# ハイライトよねやま 164

## 1 寄付金速報 — 米山月間へのご支援に感謝！ —

10月までの寄付金は前年同期と比べ2.3%増、約1,150万円の増加となりました。8～9月は低調だったものの、10月には100万円以上のご送金をいただいたクラブが19クラブ、計2,900万円（前年度は18クラブから計2,300万円）となったほか、3名からそれぞれ100万円ずつの大口寄付をいただきました。その結果、普通寄付金が1.3%増、特別寄付金が3.0%増と、一気に増加へと転じることができました。米山学友を含め、多くのロータリアンの方々からのご寄付に心より厚く御礼申し上げます。上期も残り2カ月を切りましたが、今後とも引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

## 2 2014学年度奨学金申し込み状況

2014学年度の米山記念奨学金（学部・修士・博士課程／地区奨励）には、指定校531校（昨年度500校）から1,296人（同1,490人）が推薦されました。

被推薦者の国籍・地域別割合は、中国が59.5%（前年度比▲1.9%）、韓国13.6%（▲1.1%）、台湾4.3%（+1.1%）、その他が22.6%（+1.9%）となり、前年に引き続き中国・韓国の割合が減少し、台湾およびその他の国籍が増加しました。その他の国籍で多かったのは、ベトナム、マレーシア、モンゴルでした。課程別では、博士課程が21.1%（▲2.2%）、修士課程41.7%（▲1.3%）、学部課程35.6%（+3.1%）で、学部生の割合が一層増加しています。また、大学以外の教育機関を対象とする「地区奨励奨学金」は、6地区10校から計19人の応募がありました。

上記とは別に、現役奨学生の延長制度「クラブ支援奨学金」には9地区13クラブから、また、試行2年目となる「海外応募者対象奨学金（個人応募）」には、94件の応募（採用枠は15地区最大3人）がありました。

11月中旬から、各地区へ応募書類を発送し、1月下旬までに地区選考委員会による書類選考・面接試験が実施され、2月中旬には新規採用者544人（2013年11月現在）が決定します。

## 3 ネパールに米山学友会が誕生！

ネパールの首都・カトマンズ市内で、10月19日、ネパール米山学友会の創立総会が開催されました。海外米山学友会としては、台湾、韓国、中国、タイに続いて5番目です。

当日は、ネパールの米山学友15人、日本のロータリアンや関西米山学友会役員ら11人のほか、浜田清彦在ネパール日本国大使館一等書記官ら来賓を含む約40人が出席。初代会長には、スレス・ダス・シュレスタさん（1994-96／大阪天王寺RC、現在カトマンズRC会員）、副会長には、ビジャヤ・パントさん（1995-97／広島東南RC）、そのほか5人の役員が選任されました。スレス会長は「米山記念奨学金のおかげで、ネパールには農業をはじめ各分野のリーダーとして活躍する学友が大勢います。今後は全員と連絡を取り合い、一丸となって日本とネパールの懸け橋となるよう頑張りたい」と、抱負を語りました。



## 4

## 奨学生・学友が高齢者と交流 — 第 2770 地区 —



第 2770 地区（埼玉県南東部）の奨学生・学友会が 9 月 14 日、県内にある介護老人保健施設を訪問し、高齢者の方々と交流しました。

当日は渡邊和良ガバナーのほか、奨学生・学友 39 人、地区米山奨学委員らロータリアン約 20 人が参加。司会進行・アトラクションはすべて現役奨学生が自分たちで企画し、準備をしたものです。民族衣装を着て歌や踊りを披露したほか、全員で「ふるさと」「小さな世界」を合唱しました。おやつを食べながらの交流会では、奨学生らが目に涙を浮かべ、高齢者の手を取りながら「元気で長生きしてくださいね」と話しかけ、高齢者が「しっかり勉強して立派な人になりなさい、是非また来てくださいね」と、若い留学生を励ます姿に、周囲も涙を誘われました。同地区米山奨学委員長の駒崎繁夫氏は「今回の活動で奨学生が一層ロータリーの理念を理解してくれたと思う」と、手応えを語りました。

## 5

## 姫軍さんがホームカミングで講演 — 第 2580 地区 —

米山学友の里帰り制度「ホームカミング」を通じて、今年も、母国で活躍する米山学友が来日し、ロータリアンや奨学生に向けて、素晴らしいスピーチをしています。

中国学友会初代会長であり、弁護士として活躍する姫軍さんは、第 2580 地区（東京・沖縄）から招へいされ、10 月 30 日に世話クラブの東京臨海ロータリークラブの創立 20 周年記念式典で記念講演を行いました。姫さんは日中関係が悪化している近年の状況を分析しつつ、「民間交流を担うのは政治家ではなく民間人であるわれわれの責任」と訴え、その一つの証しとして昨秋、反日デモが激化する中国で“日本企業と日本人のためのホットライン”を開設し、事務所一丸となって日本人を守る姿勢を公に表明したエピソードを披露、大きな感動を呼びました。

翌 31 日は同地区米山奨学委員会が主催する三者懇親会に参加。現役奨学生とその大学関係者、カウンセラーを前にスピーチに立った姫軍さんは、必死に勉学に打ち込んだ留学時代やロータリーとの出会いで学んだ「利他主義」の話に触れながら、奨学生たちを激励しました。



ホームカミング制度は、「国内在住」「ほかの地区出身」の学友も招へい可能になるなど、地区からの要望にお応えして、少しずつ改良を続けています。さらに今年度から、これまで年間 1 名のみ招へい可能だったのを、年間 2 名まで招へいできるように拡充しました。まだ紹介されていない素晴らしい学友がたくさんいます。多くのロータリアンが集まる地区やクラブの行事に、ぜひホームカミング制度を活用し、活躍する米山学友をお招きください。